

第4学年 国語科学習指導案

指導者 白濱 麻美

- 1 日 時 平成27年6月24日(水) 5校時
- 2 学年・学級 4年2組(男子15名 女子17名 計32名)
- 3 単元名 「様子を思い浮かべて ～いろいろな詩 まど・みちお～」

4 単元の目標

- 一行詩を書くことに関心を持ち、意欲的に書く。 (関心・意欲・態度)
- 自分が想像したことを伝え、友達の話もイメージをふくらませながら聞く。 (話すこと・聞く)
- 言葉を選び、よりの確に表現する。 (書くこと)
- 短い言葉に象徴されている作品の世界を想像しながら読む。 (読むこと)
- 題材をもとに、イメージを広げ、言葉を選ぼうとしている。 (言語についての知識・理解)

5 単元について

本学級の児童は、読書が好きで、休み時間にも本を借りに行ったり、5分休みや給食の待ち時間も読んだりする姿が見られる。5月に行った鬼貫俳句づくりでは、その季節で感じたことを言葉に表現することに抵抗なく取り組むことができた。これは、低学年から俳句作りを行っている成果だと言える。しかし、「楽しかった」「うれしいな」という感情を直接表現する児童が多く、語彙の少なさも感じられた。

詩は、凝縮した表現で表される。普通の文章とは違い、改行形式や連、さらに韻を踏むような特徴をもっている。いろいろな形の詩がある中で本単元では、一行詩を取り上げる。短い詩の洗練された言葉に注目させたい。自分の読み取ったことと比べてその共通点や相違点を見つけ、自分の考えに生かす力を培いたい。

まず、詩の題材だけを読み、自由にイメージを膨らませ、詩を読むことで、作者の視点や発想に驚くとともに、心に響くものを感じ取らせたい。次に、題材を与え、イメージをふくらませ、よりよい言葉を選択して、一行詩を作らせる。作り方については、3つのパターンを提示する。①見たままを表現②なりきって表現③話しかけるように表現することを意識させる。作った詩を交流することにより、イメージすることは人によって様々であることに気づかせたい。また、それらを比べ合うことにより、表現の仕方の多様性に気づき、その表現の良さを認めさせたい。

次に、転地学習を題材に取り上げる。係活動やキャンプファイヤー、宿泊体験などを共に体験しているので、共感できることが多かったと考えられる。しかし、同じ活動をして

いても、新しい視点で見つめ直し、視点を変えて表現することで自分とは違う表現に出会うことができる。ちがう表現の中から心に残る言葉を見つけて欲しいと思う。

この学習にまとめとして、それぞれのクラスの中から共感できるいくつかの作品を選び、その詩の良さを学年に広げていきたい。

6 単元における評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
・一行詩を書くことに関心を持ち、意欲的に書くこととしている。	・自分が想像したことを伝え、友達の話もイメージをふくらませながら聞く。	・言葉を選び、よりの確に表現する。	・短い言葉に象徴されている作品の世界を想像しながら読む。	・題材をもとに、イメージを広げ、言葉を選ぼうとしている。

7 指導計画（全4時間）

第1次〔1時間〕 題材からイメージをふくらませ、一行詩を作ろう。

- ・まどみちお「いろいろな詩」の中のニンジンを取り上げ、その発想の豊かさに触れる。
- ・題材からイメージを膨らませて、一行詩を作る。
- ・友達の一行詩を読み合うことで感性の違いや選んだ言葉の違いに気づき、その違いを楽しむ。(1) (本時)

第2次〔3時間〕 転地学習の中から題材を選び、一行詩を作ろう。

- ・転地学習で経験したことを一行詩に表現する。(1)
- ・作品を読み合い、感性の違いや選んだ言葉の違いに気づき、その違いを楽しむ。(1)
- ・各クラスの一行詩をもちより、その詩の良さを認め合う。(1)

8 本時の目標

- 題材からイメージを膨らませて、一行詩を作ることができる。
- 友達の一行詩を読み合うことで感性の違いや選んだ言葉の違いに気づき、その違いを楽しむことができる。

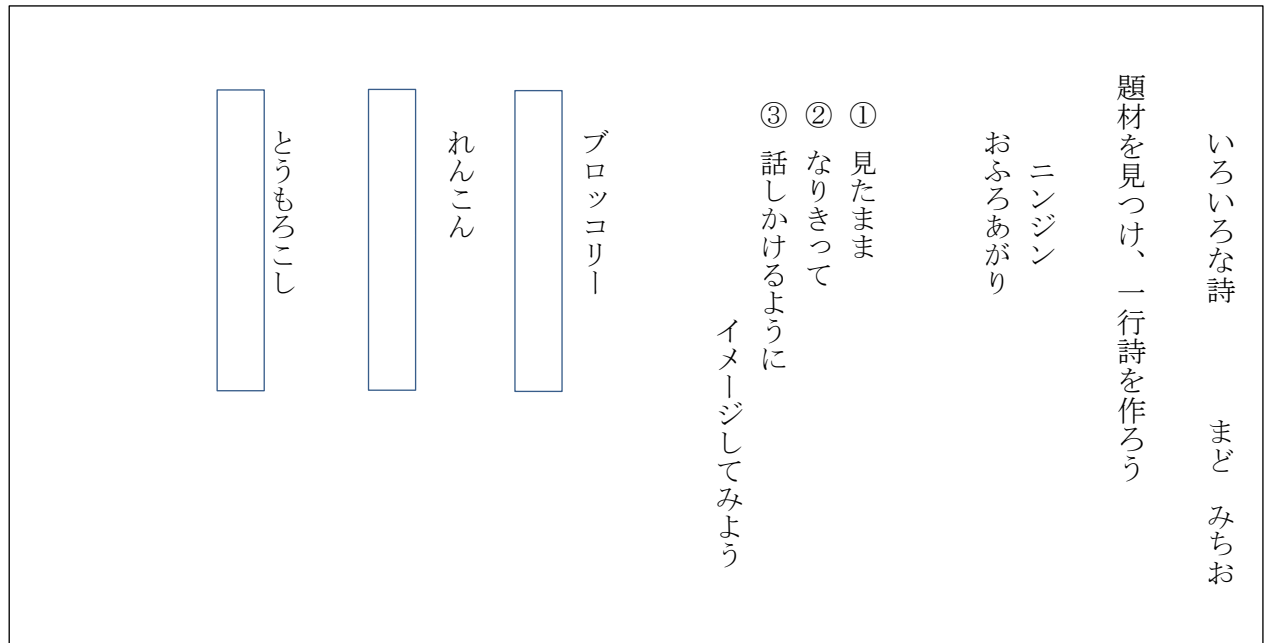
9 本時の授業展開

学習内容	指導上の留意点	評価規準
<ul style="list-style-type: none"> ・まどみちお「いろいろな詩」の中のニンジンを取り上げる。 ・本時のめあてを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニンジンからイメージすることを一言で表現させる。 ・まどみちおの発想の豊かさに触れ、一行詩を作ろうとする意欲を持たせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 題材を見つけ、一行詩を作ろう。 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・児童から題材を挙げて、一行詩を作る。 ・グループで一行詩を交流し合う。 ・本時の学習を振り返る。 ・次時の学習を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①見たままを表現 ②なりきって表現 ③話しかけるように表現 ・直接的な感情表現をできるだけ省かせる。 ・作った詩の中から気に入ったものを選び、作品を交流する。 ・友達の詩を聞きながら、自分のイメージとよく似ている詩や感じ方の違いの詩をメモしながら聞かせる。 ・心に残った詩をワークシートに書かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材をもとに、イメージを広げ、言葉を選ぼうとしている。 ・自分が想像したことを伝え、友達の話もイメージをふくらませながら聞く。

10 授業の視点

- ・感じ方の違いや選んだ言葉のおもしろさに気づくことができるワークシートだったか。

1 1 板書計画



1 2 成果と課題

【成果】

- ・まどみちおの「いろいろな詩」よりニンジンを取り上げ、その流れで野菜をテーマに創作したことは、思考の流れに無理がなく、興味をもって取り組むことができた。
- ・3つの表現（見たまま、なりきって、話しかけるように）を意識して作ることができた。
- ・交流することで、表現のおもしろさに気づくことができた。
- ・友達の見聞を聞きながらワークシートを書くことができた。
- ・写真を提示して創作することもできるが、選ぶ写真によってそのイメージが固定化されてしまう可能性もでてくるので、今回はあえて提示をしなかった。そのことによって発想が広がり、違う角度から題材をとらえて詩をつくることができた。
- ・転地学習の一行詩作りでは、言葉を精選し、凝縮された思いを短い言葉に込めることができた。
- ・事後研究で、転地学習を題材にして川柳に取り組む方法もあることを知り、川柳にもチャレンジした。俳句と違い、季語に縛られないので、そのときの楽しさをのびのびと表現することができた。

【課題】

- ・ワークシートの改良点として、交流したときの友達の作品や自分の感想を書き込めるよう、書くスペースを増やしたほうがよかった。

